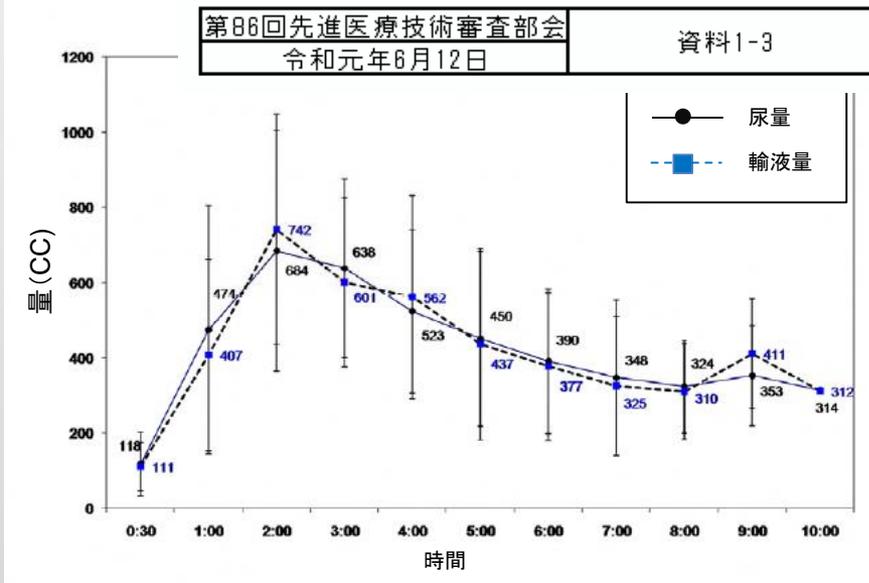


## リーナルガード臨床試験

心臓の冠動脈や足の動脈などをカテーテル治療をするときは造影剤を使うとき、造影剤は患部から腎臓に回り尿として排出されますが、腎臓内に残る量も多くあり、それが腎症を引き起こします。そこで考え出されたのがリーナルガードで、腎臓の活動を活発にして多量の尿が出る状態を続けるべく尿と同量の水分補給を続けるシステムです。これが日本人での腎症防止にうまく働くかを臨床試験します。

はじめに250cc輸液しフロセミドを打ち尿が増えるのを待ちます。時間尿が300ccになったらリーナルガードシステムを稼働させてカテーテル治療を開始します。システムは多量に出る尿と同量の輸液を施し、腎臓内の灌流が上がり出来るだけ多くの造影剤が尿と一緒に体外に出ていくようにします。カテーテル治療が終わっても4時間システムを稼働させ、残留造影剤が少なくなるようにします。結果として腎症が減ると考えられます。



尿量と輸液量が同じになる

尿重量を測り同量を輸液する

